

一九七二年、学園紛争真つただ中、当時岡山大学長代行だった谷口澄夫先生のひと言。「分かった。谷口個人として必要な印鑑はいくらでも押す。君たちのやろうとしている国際的な活動は、岡山の将来に必要なだ」

「なぜ君に会つ気になつたか分かるかね。たくさんのお客様から電話があつたが、最初に自分の氏名を名乗つたのは君が初めてだ」

A M D A 代表

菅波 茂

つたからだよ」とも言われた。

八四年に誕生したA M D A の源流である第一次岡山大医学部クワイ河医学踏査隊の実現した瞬間だった。

「西のジュネーブ、東の岡山」を目指す国際貢献N G O サミットを開催した「国際貢献トピア岡山構想を推進する会」の初代会長も引き受けていただいた。厳肅な古武士の風格。教えていただいた「公正」は私

の心の宝である。「公正」とは意欲と能力があれば、機会を与えて実現させること。意欲と能力があるのに機会を与えないのが「差別」である。

結婚式の媒酌人をお願いした。「医学部の伝統を尊重しなさい」が返事だった。長男の誕生数カ月後に、拙宅に和服姿でふらっと祝いに立ち寄ってくださった。一瞬、祖父の面影を感じたのは幻覚だったか。自分で動けなくなつたら、君の運営する老人保健施設にお世話になるからな」と時々言われた。ご恩返しをする機会は訪れなかった。突如、肺炎で亡くなられたのだった。公私ともにお世話になったことが走馬灯のように駆け巡つた。

二〇〇五年八月、岡山大と連携協力に関する協定を締結。A M D A の構築してきた国際ネットワークが母校の発展にお役に立てれば幸いである。谷口先生の最初の印鑑から三十五年。私もこの十二月で還暦になる。残る十年間を「公正」の実現にささげられれば本望である。